１１月　るりに澄む

令和８年度　原山中だより　　【第７号】令和８年１１月２日発行

努力の先に

校長　　木和田　美佐

ようやく、秋晴れの続く穏やかな陽気となりました。先月は連日続く長雨で、ある時ベランダで育てていた椿の鉢の表面が、ぬるっとしていることに気付きました。慌てて鉢から外してみると根の半分が黒く変色し土も異臭を放っており、明らかに根腐れをおこしていました。慌てて土をきれいに取り除き新しい土を入れた鉢に植え替え、しばらく室内で養生させています。「人事を尽くして天命を待つ」が如く、あとは木の生命力を信ずるのみ、ということで、うわの空でよく見ていなかった自分に反省しきりです。

「人事を尽くして天命を待つ」と言えば、１０月上旬の新人体育大会を迎えるに当たり、壮行会では生徒たちに以下のような話をしました。

～中国の古い書物の中に、「人事を尽くして天命を聴す（まかす)」という言葉があります。日本では、「人事を尽くして天命を待つ」という言い方が一般的ですね。これは、「人としてできる限りの努力や準備を行い、あとは天が決めてくれる結果を待つ」という意味です。皆さんも、３年生が引退し新しい体制となり、うだるような暑さの中、練習に励んできたことでしょうから、互いに協力して信頼し合い、全力を出し切れば、結果はおのずとついてくるでしょうし、また、どのような結果になったとしても悔いは残らないでしょう。～（抜粋)

大会の結果については、悲喜こもごもではありましたが、どの部活動でも一生懸命に戦っている姿があり、生徒達の練習の成果を見ることができました。一生懸命練習してきた自分自身を振り返り、できなかったことは次に生かし、次の目標に向かって逞しく成長していってくれることと思います。保護者、地域の皆様方からは、多くの声援をいただきまして、本当にありがとうございました。大会の結果については学校だより裏面を御参照ください。

また、１０月２０日（火）には、荒川総合グランドにおいて「第２６回さいたま市中学校駅伝競走大会」がありました。原山中学校の選手たちは、夏休み前から日々練習に励みこの日を迎えました。連日朝早くからグランドで汗を流し、直向きに走る姿は、登校する多くの生徒たちの心に訴えるものがあったと思います。当日も、一緒に練習してきた仲間の思いを背負い、ゴールを目指す選手の姿は心打たれるものでした。チーム一丸となって襷に込めた「心」をつなぐ「駅伝」は、様々な事柄に共通する大切なことを教えくれる競技であると感じます。走り終わった後の選手たちの爽やかな笑顔も印象的でした。

一生懸命取り組んだ先に、自分の望んだ結果が待っているかは誰にもわかりませんが、「全力で頑張った」という経験や思い出が、それぞれの生徒の中で糧となり、いつか花を咲かせる原動力になってくれることを信じて、日々の教育に取り組んでいきたいと改めて心に誓いました。

少しずつ寒さが増してきておりますので、保護者・地域の皆様方もくれぐれも御自愛ください。